◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は令和5年10月発行予定です。
「まちかど」カラー版は、品川区ホームページからご覧いただけます。https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/
裏面のQRコードよりアクセス可能です。

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

●荏原第一地域新聞●

第２１７号
令和5年（2023）8月発行
発行・事務局
◎荏原第一地域センター◎
小山3-14-1（〒142-0062）
TEL　３７８６－２０００
FAX　３７８６－５３８５

花めぐり

デュランタ

デュランタは紫色や白色の小さい花が集まって房状に咲く熱帯花木です。原産地はアメリカ・フロリダ地方、ブラジルです。開花時期は6月～9月ごろで夏から秋まで次々と花を咲かせ、生垣にもよく利用されます。日当たりの良い環境が大好きで、日がよく当たると花付きが良くなります。

花の大きさは1～1.5cmほどでアジサイのように房状に集まって咲くのが特徴です。花びらは５裂した花弁に白い縁取りのあるおしゃれな花を多数咲かせ、涼しげな印象を与えてくれます。

花後に、丸いオレンジ色の小さな実ができます。実は5～7㎜ほどで花よりも小さいです。果実は有毒で食べられません。

花言葉は「あなたを見守る」「歓迎」。デュランタの垂れ下がるように咲く美しい花を見ると、花たちに歓迎されている、見守られているような気分になることからイメージしてつけられたのではと言われています。

令和4年９月　小山四丁目で撮影

（小山四丁目
東　美佐栄 ）

笑顔あふれる区民まつり

7月15日（土）荏原第一地区区民まつりが4年ぶりに小山台小学校で開催されました。

校庭には当番町会、小山小学校おやじの会、中学校などによる模擬店が立ち並び、かき氷、磯辺焼き、ヨーヨー釣りなど多くの来場者が行列を作っていました。体育館には地区委員会による各種ゲームコーナーが並び、元気に遊ぶ子ども達の声が響きました。ゲームに使用する体験カードは、例年より多く用意していましたが、開始40分でなくなるほど大盛況でした。

校庭の提灯に明かりが灯されると太鼓や音楽に合わせて盆踊りがはじまり、やぐらを囲み輪になって大勢の人々が楽しく踊る姿がみられました。

物価高騰等の影響により、会場設営は業者に頼まず、地域の方々と地域センター職員一同が一丸となり作り上げ、地域の連携が深まったのを感じました。

来場者としては延べ７０７５人に達し、笑顔あふれる1日となりました。

（小山二丁目東部町会・大森　久恵 ）

小中学生から募集した標語を町内に掲示

荏原四丁目町会では、15年以上も前から町内各所に設置していた標語の立看板を新装するにあたり、新企画として、町内在住の小中学生を対象に、「町会員のコミュニケーションの向上」や「安心・安全の街づくり」をテーマに標語を募集しました。回覧板・掲示板、在校生の多い荏原平塚学園では直接チラシを配布し、応募を呼びかけました。約２ヶ月の募集期間でしたが、当初はほとんど反応がなかったものの、締切10日前頃から町会やＰＴＡ役員が呼びかけをしたところ、募集を締め切る頃には14作も応募がありました。

小学２年生から中学３年生まで、それぞれ素直で明るい良い作品だったので、全作品を採用することになりました。子ども達には３千円の図書券を贈呈し、大変喜ばれました。２月中旬に会員皆で協力し町内各通り14ヶ所の電柱に、新しい標語を掲載した看板が設置されました。

その中の３作を紹介します。

・助け合い　絆を深める　町内会　　７年生
・災害にそなえて安心して暮らせる町にしよう　　３年生
・お早う　こんにちは　有難う　明るい街の合言葉　　９年生

後地の歴史探訪の集い Ⅱ
～後地の地名の由来、空襲と疎開の記憶～

3月に西部町会で開催した「後地の歴史探訪の集い」では、「後地の七不思議」を取り上げ、最初が「後地の地名の由来」でした。後地（うしろじ）という珍しい地名は、現在の小山一丁目から二丁目一体の呼称と言われ、明治22年頃は「東京府荏原郡戸越村字後地」でした。現在後地という住所は存在せず、交差点名、後地小学校（昭和３年創立）、後地大神輿等にその名を留めています。

地元民には、この愛すべき名前がいつ付けられたか、長い間の謎でした。今回長老４人のご意見を伺った所、何と全員異なったのです（「目黒不動尊」由来説、「朝日地蔵尊」由来説、「地元有力者」由来説、「戸越八幡神社」由来説等）。

４人の長老でも解決に至らず、再び迷宮入りとなりました。

「探訪の集い」では、長老たちの空襲体験と疎開の思い出も語られました。

東京大空襲は、その夜に後地からも北の空が真っ赤に染まる異様な光景が見えたそうです。後地の空襲時には、品川用水の水を汲み、消火活動に奔走したとの事です。なお、パルム商店街が焼けたのはその翌日の空襲でした。

疎開での辛い想い出も語られました。

後地小学校では３１５人が伊豆長岡、１００人が富山県に疎開。その後伊豆も危なくなり、三日三晩かけて列車で伊豆から青森に再疎開しました。長老のお一人は、疎開先での辛い生活や、亡くなった同級生の思い出を、涙ながらにお話して下さいました。次回は、後地交差点に流れていた「品川用水」他のお話をさせていただきます。

（小山二丁目西部町会　石井　一成）

町会活動紹介

我が町会の新時代の幕開けとなりました。

（荏原四丁目町会
生活安全部長　高橋　幸雄 ）

防火防災部の活動について
（小山台1丁目東町会）

地域防災として震災、風水害等に備える事が重要と考えられます。当町会においては、区の防災地図から見ても浸水や土砂災害の想定区域に該当しておりませんが、木造住宅密集地域に該当しており、そのための対策が必要と考えます。災害対策の一環として、当町会の区民消火隊では、毎月、消火隊による放水訓練を行っております。他には、町会行事のどじょうつかみ時に放水訓練を兼ねたどじょうプール作りや、年末に防火パトロール等を行っております。

その他、区や都の防火防災に関する助成金の積極活用により、発電機、電源バッテリー、ソーラーパネルを購入しております。今年度も資器材の充実を考えています。

今後の課題として防火防災部、防災区民組織、区民消火隊等の担い手不足が挙げられます。防火防災に関心をお持ちの方、またお手伝い頂ける方はご連絡いただけますようお願いいたします。今後とも皆さんとともにこの地域を守っていきましょう。

（小山台一丁目東町会長・石津　忠雄 ）